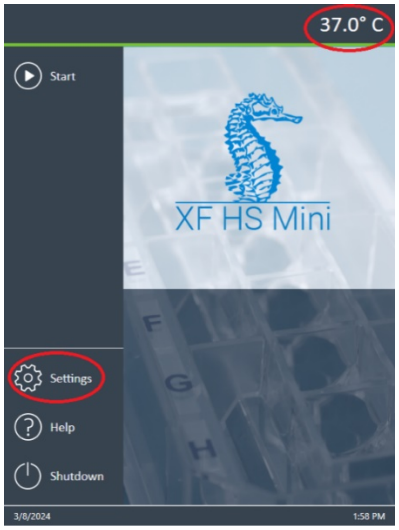
Agilent Technologies 社製 XF HS Mini / XFp Diagnostic Test・Log 送付手順

装置にエラーが起きた際は、以下の手順で装置の診断が可能な場合があります。弊社担当者が必要と判断した場合に、手順を参照して必要なテストを実施してください。※手順を誤ると装置が破損する恐れがあるため、手順をよく確認してください。
Log の送付のみ行う場合には、最終ページ【Log の送付】に進んでください。
※XFp も画面は多少異なりますが、同様の手順で実施可能です。

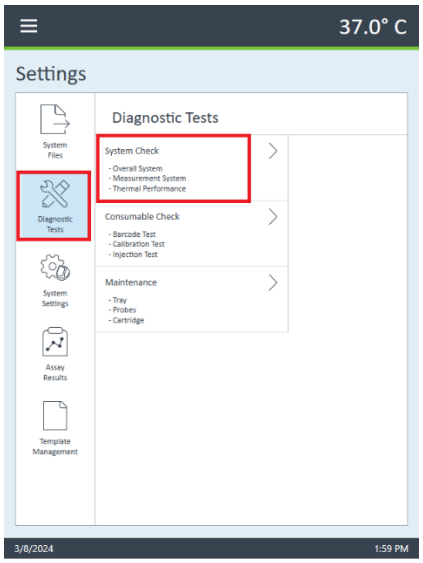
【装置の起動】

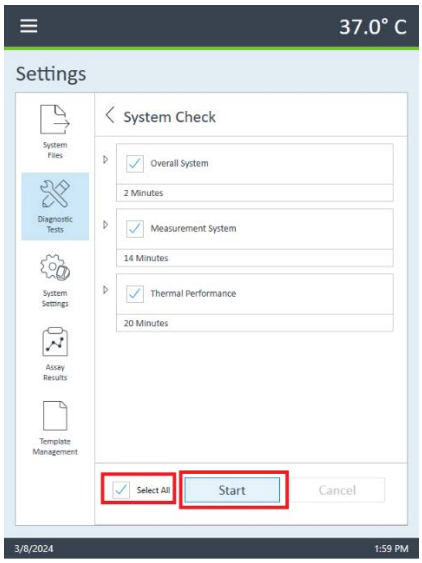
1. XF HS Mini 装置を起動します。
2. ソフトウェアが起動したら、20 分程待ち、温度が 37℃まで上昇し、安定するのを待ちます。



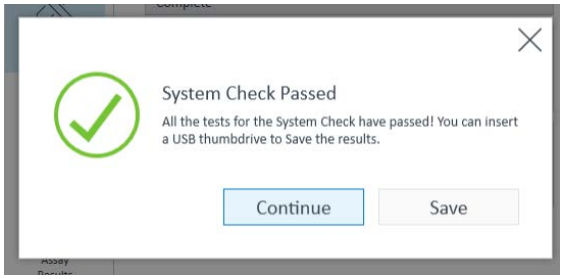
【System Check（システムチェック）】

1. Home 画面より Settings ＞ Diagnostic Tests を押します。
2. System Check を押し、Select All にチェックが入っていることを確認して Start ボタンを押します。System Check が開始されます（所要時間：約 30 分）。



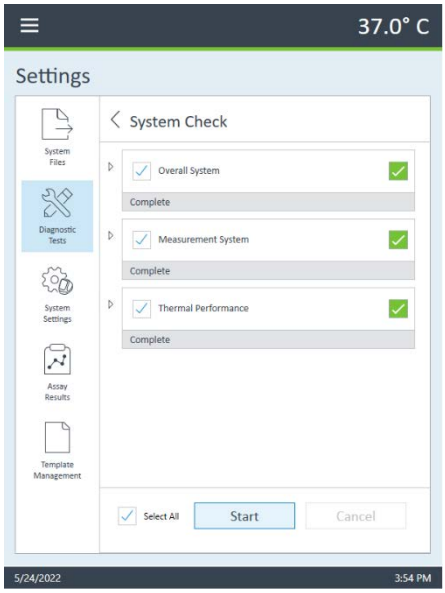


3. テストが完了すると、最終結果が表示されます。確認し、Continue 又は [x] ボタンを押します。



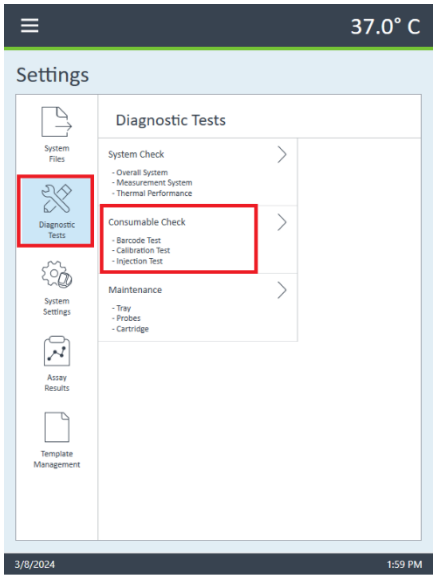
Pass の例

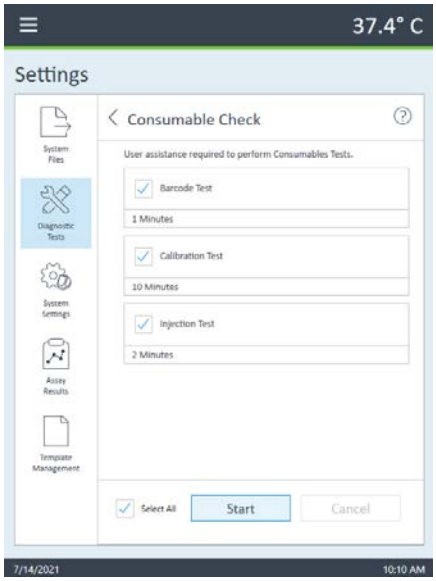
4. 各テストの結果が Pass ✅／Fail ❌ で表示されます。Fail した場合は、該当するテストの左側の ▷ ボタンを押して内容を展開し、Fail したテストの詳細を確認できます。



【Consumable Check】

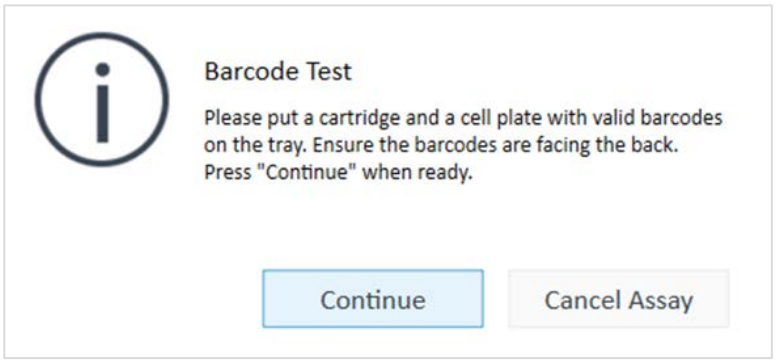
1. Diagnostic Tests ＞ Consumable Check を押します。
2. Barcode Test、Calibration Test、Injection Test の各テストを個別に実施できます。※Select All にチェックが入った状態で Start を押すと、全てのテストが上から順番に開始されますが、後述する全ての消耗品の準備が開始前に必要です。本手順では個別の実施手順を記載します。



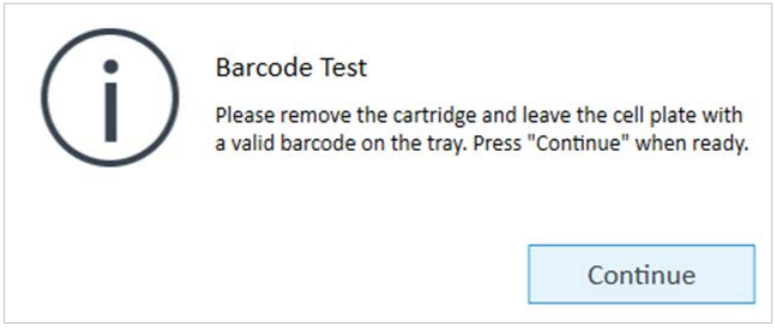


【Consumable Check - Barcode Test（バーコードテスト)】

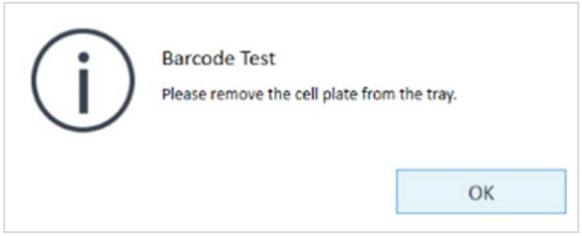
1. 使用期限内のセンサーカードリッジと細胞培養プレートを用意します（使用済み可)。
2. Barcode Test 以外のチェックを外し、Barcode Test にのみチェックを入れた状態で、Start を押します。
3. トレイが出て、下図が表示されます。蓋を外したセンサーカートリッジ・細胞培養プレートを重ねてトレイにセットし､Continue を押します｡バーコードテストが開始します(所要時間約 1 分)。



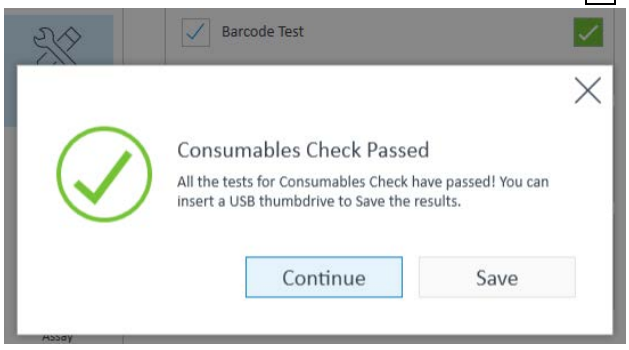
4. カートリッジのバーコード読み取り後、トレイが出て、下記の画面が表示されます。カートリッジのみ取り外して細胞培養プレートはトレイに残し、Continue を押します。



5. 細胞培養プレートのバーコードの読み取りが完了するとトレイが出るので、プレートを取り出して OK を押します。

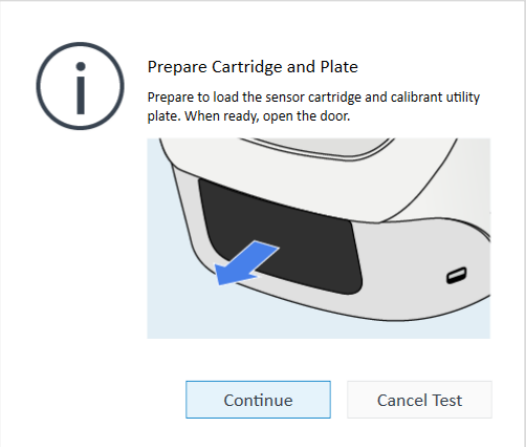


6. 結果が表示されます。確認し、Continue 又は x ボタンを押します。

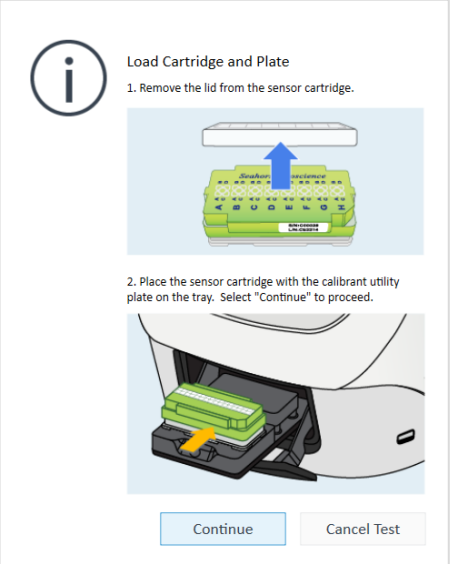


【Consumable Check - Calibration Test（キャリブレーションテスト）】

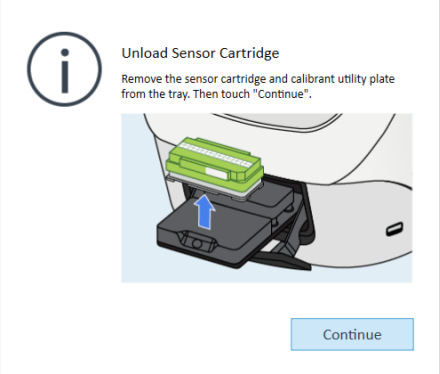
1. 予めセンサーカートリッジを 37℃のインキュベータで一晩水和します。
2. 水和したセンサーカートリッジを装置の前に準備します。
3. Calibration Test 以外のチェックを外し、Calibration Test にのみチェックを入れた状態で Start を押します。下図が表示されるので、Continue を押します。



4. トレイが出るので、蓋を外したセンサーカートリッジ・プレートをトレイにセットし、Continue を押します。キャリブレーションテストが行われます（所要時間約 10 分）。テスト完了後は自動的にトレイが出てくるため、装置の前から離れないでください。



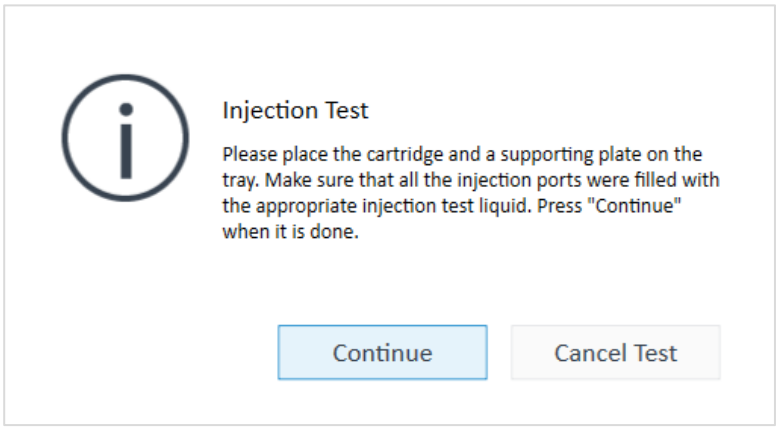
5. テストが完了するとトレイが出て、下図が表示されます。センサーカートリッジ・プレートをトレイから取り外して Continue を押します。



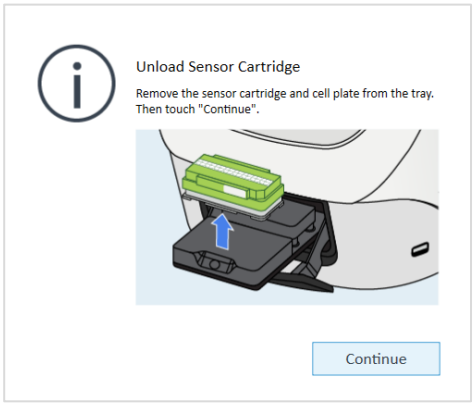
6. 結果が表示されます。確認し、Continue 又は [x] ボタンを押します。

【Consumable Check - Injection Test】

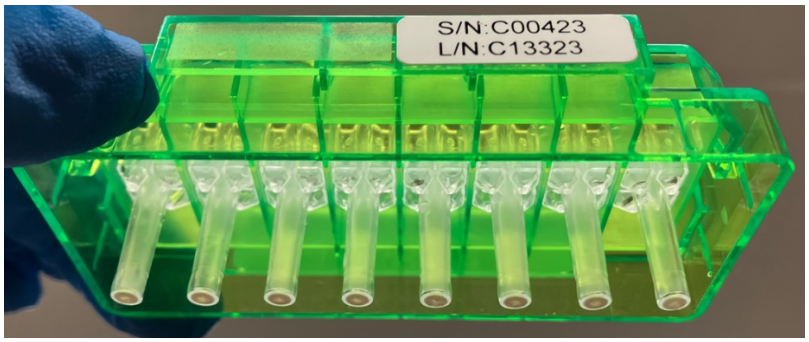
1. センサーカートリッジ（期限切れ可）の A～D の全ポートにキャリブレーション溶液を **25uL** ずつ充填します。※プレートはユーティリティ・細胞培養プレート（期限切れ可）どちらでも可。
2. Injection Test 以外のチェックを外し、Injection Test にのみチェックを入れ、Start を押します。
3. トレイが出て、下図が表示されます。センサーカートリッジ・プレートをトレイに乗せ、Continue を押します。インジェクションテストが行われます（所要時間約 2 分）。テスト完了後は自動的にトレイが出てくるため、装置の前から離れないでください。



4. テストが完了するとトレイが出て、下記の画面が表示されます。センサーカートリッジ・プレートをトレイから取り外して、Continue を押します。

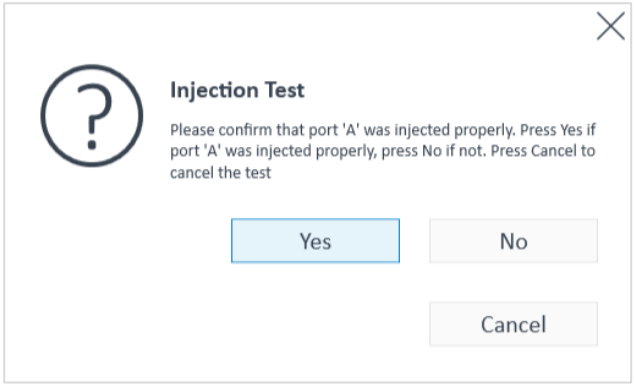


5. カートリッジのポートを目視して、全ポートで溶液が排出されたか確認してください。ポートの底に少し（1uL 程度）残るのは正常です。



良好な例

6. 正常に排出されたかの確認画面が A～D 各ポートについて表示されます。各ポートについて正常であれば Yes、排出が不十分なポートがあれば No を押します。

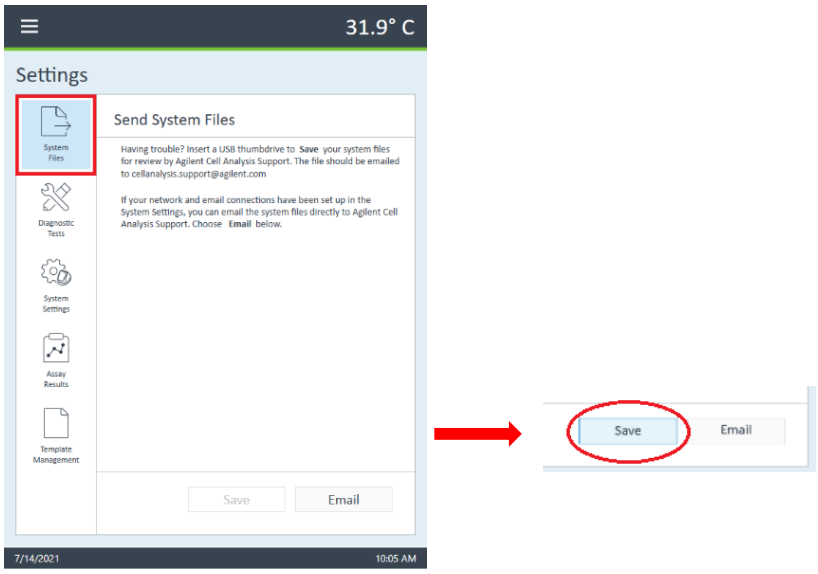


A ポートの例

7. 選択した結果に基づき、最終結果が表示されます。確認し、Continue 又は [x] ボタンを押します。

【Log の送付】

1. 必要なテストが全て完了したら、Home 画面 ＞ Settings ＞System Files を押します。
2. USB メモリを装置に挿入し、Save を押します。



3. USB メモリ内に「Diagnostic Report_年月日_時刻_装置シリアル.zip」という名称の圧縮ファイルが生成されるので、弊社担当者へ送付をお願いします。

ご不明な点等ございましたら、弊社テクニカルサポートまでご連絡をお願い致します。

お問合せ：
プライムテック株式会社
www.primetech.co.jp

技術部・テクニカルサポート
東京都文京区小石川1-3-25 小石川大国ビル2F
Phone：03-3816-0851(代表)　Fax：03-3814-5080
E-mail：support@primetech.co.jp